

令和3年度第2回

豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 議事録

日 時：令和4年2月1日（火）

午後2時～4時

場 所：市役所南庁舎7階 南74委員会室

Web会議

■ 出席者

（豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会委員）

※五十音順

所属機関・団体名	氏名	出欠
豊田市民生委員児童委員協議会	兼子 吉彦	○
一般社団法人 豊田加茂医師会	柴原 弘明	○
愛知県立大学	田川 佳代子	○
一般社団法人 豊田加茂歯科医師会	谷川 博伸	○
日本福祉大学中央福祉専門学校	長岩 嘉文	×
社会福祉法人 豊田市社会福祉協議会	中田 繁美	○
中京大学 現代社会学部	野口 典子	○
豊田市ボランティア連絡協議会	服部 亮二	○
豊田市高齢者クラブ連合会	花村 善照	○
豊田市区長会（自治区）	羽根田 宏之	○
豊田市ファミリー・サービス・クラブ	三崎 祐子	×
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会	三井 克哉	○
豊田市介護サービス機関連絡協議会	南 美代子	○
市民公募	村瀬 麻衣	○
一般社団法人 豊田加茂薬剤師会	山田 雄三	○

■ 豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 次第

第1 開 会

第2 議 事

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について
(報告事項)

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について (承認事項)

【議題2】豊田市地域包括支援センター運営要綱の一部改正について (承認事項)

【議題3】令和4年度豊田市地域包括支援センター事業運営方針について
(承認事項)

【議題4】地域ケア会議について (報告事項)

【議題5】地域包括支援センター職員の人材育成について (報告事項)

(3) その他

第3 連絡事項

〔 議 事 内 容 〕

(会長)

本日の議題は大きく2つあります。まず一つ目は、昨年度策定し、進行中の第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画のこの一年を報告していただき、今後の2年を考えていきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について

(報告事項)

概要説明(介護保険課)

- ・第8期高齢者保健福祉計画の重点施策の取組状況について説明

(会長)

8期計画の進捗状況について、重点施策3つのできていないところを中心に報告していただきました。

御意見・御質問などはいかがでしょう。

(委員)

SIBを通しての介護予防事業について、内容的には非常に充実してとてもよいと思うのですが、事務局からも報告があったように参加者がすごく少ないです。内容的にオンラインが多いのですが、高齢者にとってオンラインは非常に不慣れで70代80代の方は使えない方が多いです。提案ですが、このままでは参加者が少ないままだと思いますので、例えばタブレットを貸し出して、指導する活動を検討してはいかがでしょう。それを民間の事業者に依頼して、得意な事業者が試験的にそういったことをすることはできないでしょうか。このままでは数千人規模で終わってしまうと思います。豊田市には高齢者が10万人います。1万4千人が介護認定者ですから、それ以外の高齢者8万5千人を対象にして、数千人で終わっては意味がないので、これからのデジタルの時代を先取りして、オンラインが使えない人を自宅で使える状態にするとよいと思います。道具立てがないと参加は進まないと思います。温浴施設の豊寿園では10万人利用があるのですが、バス送迎があります。道具立てがあると参加者が増えると思います。

(会長)

ありがとうございます。高齢者の手元に機材があるのかどうかということと、あった

としてもその使い方がどうなのかということだと思いますが、市の考えはいかがですか。

(事務局)

委員のおっしゃるとおり、高齢者の方にとってデジタルはハードルが高いと思います。ずっと元気プロジェクトでスマホ講座を実施しています。また、豊寿園を活用し、10月・1月・2月とスマホ講座を開催しています。コロナの影響もあり、参加人数は1回当たり15人程度ですが、人気の講座です。来年度は教養講座のメニューに追加できないかと施設と検討しています。すぐに解決できるものではありませんが、地道に活用ができる方を増やす努力を進めています。

(委員)

スマホやタブレットが購入できない人のために、市が貸与することも検討していただきたいと思います。

(会長)

機材の問題と気軽に参加できる講座などの充実でデジタルの活用の突破口が開けるとよいと思います。

(委員)

資料1の5ページ重層的支援体制の推進の課題として、実施体制に差が出ているということですが、その差の意味と対応策について、もう少し具体的にご説明いただきたいです。

(事務局)

実施体制の差について、優劣ではなく、旧市内支所においては地域振興部が主体となって福祉の相談窓口を設置し、そこに社協CSWを配置していただいております。旧町村においては、社協支所に相談窓口を担っていただいているという、運営的な差のことです。

対応策については、福祉の相談窓口、社協支所の相談窓口のそれぞれの特性を踏まえ、統一した運用での視点も持ちながら検討を進めていきたいと考えています。

(会長)

豊田市ではCSWを配置した5か所の総合相談窓口を設置していて画期的ですが、それを全市的に展開するのか、地域の事情に合わせて取組をされている旧町村支所を

いかして重層的支援を作っていくのかは課題になっていくと思います。この計画と地域福祉計画と連動し、市としてどのように重層的支援を作っていくかを検討していただきたいと思います。

(委員)

重点施策 I 3 集いの場へのコーディネート強化の課題と対応策について、地域資源マップのシステム選定とありますが、これはどのような意味ですか。

(事務局)

地域資源マップは高齢者の方が気軽に楽しく集まれる場所を集いの場と言っています。市内のどこにそういった場所があるのかを地図上に落とし込んだもので、高齢者の方に御案内をするツールとして活用しようとしています。現在試作の段階で、ベースとなるシステムをどのようなシステムにするか検討しているところですが、今現在はグーグルマップを使って、その地図上に場所を落とし込んで試作として作成しています。今のところ、S I Bの活動を実施している場所やスポーツクラブの場所を地図上に落とし込んでいます。井郷地区と朝日丘地区をモデル地区として選定し、地域包括支援センターの職員等が高齢者の方にご紹介する実証実験をしています。その結果を検証しているところです。

(委員)

先ほども話題になったように、オンラインが使えない方でもたどり着けるような資源マップを準備してほしいと思います。

(会長)

オンラインと実物のハイブリッドになるでしょうね。実証実験を通じて創意工夫をしていただきたいと思います。

(委員)

この計画には認知症になってからのサポートが載っていますが、認知症にならないための予防や啓発はどうなっていますか。

(事務局)

こうなったら認知症にならないという科学的なエビデンスがないのが現状です。ただ、こういう人は認知症になる確率が高いというのが少しずつはつきりしてきていま

すので、日常生活に気を付けていただくことを含めて認知症について理解を深めていただくことは委員のおっしゃる通り大切だと考えています。そのための場として認知症サポーター養成講座を実施しています。コロナの影響を受け歯がゆい思いもしておりますが、啓発では、そのような活動に力を入れています。また、心と体は一体ですので、体を動かすことで認知症予防をしていただくために元気アップ教室を実施しています。しかしこれもコロナの影響を受けて思うように進まない状況です。予防が大切であることは認識しており、そういった活動に力を入れていきたいと思っています。

(委員)

8ページのⅢ社会全体で取り組む認知症支援3若年性認知症の記載について、課題に本来のターゲットと参加者の実態との乖離とありますが、実態がどのようなものか知りたいです。また、若年性認知症の方が気持ちの問題で楽になるのも大切ですが、若い分経済的不安があると思うので、生活の基盤を少しでも支えられるようなサポートを市でもしていただけるといいと思います。

(事務局)

参加者の実態について、参加者の多くは64歳以下で認知症を発症された方ですが、現在の参加者は、仕事をリタイアされた方がほとんどで、より若い世代で家族を支えお勤めされている方を取り込めないかと考えています。そのためには、実際に働いている企業さんに理解を深めていただく必要があると考えており、企業向けの若年性認知症のPRなども始めています。

(会長)

若年性認知症の年齢は下がっていますし、そのことによる生活障害が起こっているので、働きながら自分の健康を維持していく生活の仕方を支えていかなければならないという新たな認知症問題の局面も出てきています。雇用側が病気の理解をしながら働き方改革をしていただく必要があります。若年性認知症の発症の実態把握は難しいと思いますが、早期発見がどのような仕組みになっているのかも今後大きな課題になると思います。大変な仕事ですが、よろしくお願いします。

(会長)

それでは次の議題にまいります。

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】 地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について説明

（会長）

今御説明いただいた承認事項はよろしいでしょうか。

（承認の確認）

ありがとうございます。

【議題2】 豊田市地域包括支援センター運営要綱の一部改正について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 豊田市地域包括支援センター運営要綱の一部改正について説明

（会長）

現状とは変わらないけれども、明確化するという事で、改正後は職務に当たる者とその職務を明確化したという要綱の改正ですがよろしいですか。これも承認事項です。

（承認の確認）

ありがとうございます。それでは次にいきましょう。

【議題3】 令和4年度豊田市地域包括支援センター事業運営方針について（承認事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 令和4年度豊田市地域包括支援センター事業運営方針について説明

（会長）

ありがとうございます。大きくは2か所です。1か所はセンターの役割を明記したことと、それから14ページの9の認知症の取組方針のところには本人の意思確認ということも明記したということです。いかがでしょうか。これも承認事項です。よろしいですか。

（承認の確認）

ありがとうございます。

【議題4】地域ケア会議について（報告事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 地域ケア会議について説明

（会長）

ありがとうございます。続けて次の議題の報告をお願いします。

【議題5】地域包括支援センター職員の人材育成について（報告事項）

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 地域包括支援センター職員の人材育成について説明

（会長）

ありがとうございました。よく私達が社会福祉の教育をするときに最低100事例くらいは持って、それを分析できるだけの力を持つと言われてきましたが、横に繋がって事例検討することは力になると思います。負担感が強いというのもよくわかりますが、ぜひとも続けていただけたらと思います。ここまでいかがですか。

（委員）

出された課題や報告について、医師会として特に申し上げる点はございませんし、ぜひこの施策を進めていただければと思います。今のコロナの観点から申しますとやはり感染力が強くて、私も毎日診療していて、昨日も10名、今日も2名陽性者が出ました。かなりご家族内でも濃厚接触者や陽性者も出ています。皆さん、気を引きしめていただきながら、いろいろな会議であるとか、こういった事項について御検討いただければと思います。医師としての立場からは以上でございます。ありがとうございます。

（会長）

ありがとうございます。ここまで地域包括支援センターについての御報告をいただきましたが、なにか御意見はありますか。

（委員）

伺っていて、さすが豊田市だなと思うところがたくさんございました。特に人材育成のところ、こういった取組がなされている自治体は私が関わっているところではないです。今、ケアマネジャーの離職が続いていて、3職種が回らないというところもある

ようですので、こういった取組はとても重要で他の自治体もこのようにしたいのではないかと、でもなかなかこれを実現するのは難しいのではないかと思います。工夫等がされているところがあれば教えていただきたいです。それから10ページですが、職員配置について、他の自治体で6,000人を超えると、超えた分について0.5人を付けるというのは見たことがあるのですが、6,000人未満で4人5人と配置するという自治体は充実した財政の中でできることなのかなと思っています。質問ですが、こちらに第1号被保険者の人口がないので、どこにどのくらいの第1号被保険者に対しての地域包括支援センターで、どういう配置になっているのかのデータがありません。他の自治体では積算した委託料までついた資料が出てくるので、同じようにすると、一体どのくらいの費用が第一線の窓口で、提供されているのか分かってくると思います。高齢者の第一線の窓口を担う地域包括支援センターを充実させていただいているというのは、住民の方々にとってはとても心強いことです。これがどのような成果として、住民の福祉あるいは介護、医療に資するものになっているかという点について、データでお示しいただけますとよりよいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。まず人材育成のことですが、取組を始めて3年とお話させていただきました。開始させていただいた経緯は、まず横繋がりを作りたいというところで、地域包括支援センターの職員に職種で集まっていただいて、このような取組はどうですかということを確認させていただき、続けたいという御意向があったため、ブロックごとに職種で集まる取組を継続させていただいています。研修につきましても、豊田市で研修を受けたいという御要望が強くありましたので、必要な研修をピックアップしまして、毎年地域包括支援センターの職員に研修内容を確認しながら、計画を作らせていただいております。このように、地域包括支援センターの職員の皆様の御意見を入れながら、進めさせていただいているところが継続している一つの理由かとは思っております。しかし、概要説明でも御説明しましたが、負担が大きいという反面もありますので、課題として今後考えていきます。

もう一つの人材配置については、次回の地域包括支援センター運営協議会において、職員数と予算額決算の御報告をさせていただき予定としておりますが、現状で簡単に申し上げますと高齢者数3,000人から6,000人の枠の地域包括支援センターが一番多くなっております。山間部につきましては1,500人未満ということで3人のところが多くなっております。現在8,500人以上の地域包括支援センターはなく、6,000人を超えるところが二つございます。

(委員)

研修というのは非常に大変なテーマで、やっても答えがないと思いますが、現場にみえる方が人を扱っていることによって、不満がいっぱいあると思います。その不満を聞いてあげる場所というのは研修の中にあるのでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。研修の中でというよりは、ブロックの協力事業の同じ職種で集まる中において、職種によっていろいろな物事の捉え方もありますので、その中で日々のコミュニケーションを図りながら、自分の中で消化していくようなそういった時間を設けさせていただいております。

(委員)

人を扱っているので、物ではないのでそれぞれ皆違うのですね。どんどん不満を聞いてあげて、やりがいのあるような職場の研修も取り入れていただければありがたいと思います。

(会長)

地域包括については一度終了してもよろしいでしょうか。ありがとうございました。皆さんご協力いただき、非常にスムーズに御報告、御審議いただきましたので、今年度最後に、豊田市に期待することや感想等、お話をいただければと思います。

(委員)

医師会からはブロックごとに研修会をさせていただいて、各包括支援センターの方や地区ごとの方に御参加いただいて研修を通して特にアドバンスケアプランニング等を進めました。皆様のお力添えで研修会が行うことができました。認知症のことについても、医療的なことについても市の施策を講じていただいております。一個人だけでは至らぬ点もありますが、システムとして回っていく形ができますと、市民の方々、家族の方々も疾患の治癒あるいはサポートになりますので、ぜひともお力をお貸しください。ありがとうございました。

(委員)

長くメンバーという形で分科会に携わらせていただきました。ありがとうございました。今回の見守りネットワークの方でICTを活用したツールを使ったテスト事業が始まると伺っていますが、やはりこういうICTを使ってもそこから漏れてしまう

方あるいはアナログとデジタルも共存というのは今後もやはり避けて通れない事業の展開の仕方になるかと思えます。すぐに情報の新しいものを載せるということであれば、デジタルはすごく重要なツールになるかと思えますが、やはりそれは使えない方たちが取り残されないようにしていくということが今後の事業展開の中で市行政等も考えていかないといけないものになるかと思えます。地域の高齢者を支えるためには、やはり民生委員とか、そういう方たちの活動をもう少し一般市民の方たちに広め、担い手を増やしていき、いつまでもボランティアという形ではなく、ある程度何らかの金銭的な補助していかないと、続く方たちが増えていかないのではないかと個人的には思っておりますので、豊田市でも御検討いただけるといいかと思えます。

(委員)

先ほどのデジタルの時代になるという話の延長で申し訳ないのですが、SIBの事業だけでなく、タブレットさえあれば例えばオンラインで診療を受けたり、あるいはもっと身近な例で言うとズームを使って友達と話も出来ます。そのようなところから高齢者に渡してどんどん使ってもらおうということが非常に大事だと思います。アナログとデジタルを併用せざるを得ない部分も出てくるのですが、できるだけデジタルが使えるようにしないと、これからの時代にはもう高齢者が取り残されてしまうと思います。ぜひ前向きに市もタブレット等を貸出すことを検討していただきたいと思います。もう一つ認知症についてはいろいろな議論があります。確かに予防は無理ですが、我々の傾聴の事例ですと、認知症の進んだ80代の男性に、将棋をしながら傾聴活動しました。もう何年かやっていますが、最初は将棋が少しおかしくて10回しているうちに、もうこれは傾聴者も負けないといけないかと思っていましたが、だんだん本気になって、3回のうち1回は認知症の方が勝つようになりました。それぐらいの持てる余力があれば認知症の方もしっかりとした生活ができますので、認知症の方を当たり前を受け入れる世の中にみんなでしていけば共存ができるものだと思います。

(委員)

先ほどから皆さんの話にも出ていましたが、やはりデジタルとリアルの両方を併存させる形で今しばらくはやる必要がある、オンラインに対してもやはり高齢者には慣れてもらう必要があると思います。また、例えば継続的に支援を行うという面であれば先ほどの有償であるか、または無償であるかということもかなり大事な話になってきますので、継続的に支援業務に携われるような金銭的、経済的な支援ははっきりさせたものにする必要があると思います。また研修は大変勉強になり、私も現場に行って、地域ケア会議や研修会に参加させていただきます。特に中間管理職へのしわ寄せもかな

り大きいということを現場でよく聞きますので、現場の負担というのを考慮しながら続けていただけると良いなと感じております。

(委員)

私はこの3年間振り返って、この会に参加させてもらっての感想をお伝えしたいです。私は市民公募で参加させていただいて、当初は少し堅い会なので、私の意見は聞き流されてしまうかもしれないというつもりで参加していたのですが、毎回会長はじめ皆さんきちんと意見を拾っていただいてその場で解決できなかったことは後からちゃんとお返事をいただいたりして、一小さな市民の意見がきちんと伝わっているということにすごく感激しておりました。自分の視点も3年で変わりましたし毎回数字等で高齢者の実態等が分かることでよりリアルに高齢者の暮らしというものがあった気がしますし、自分の日ごろの活動にも大きな影響をいただきました。そのため、市民公募は今回私1人だったと思いますが、もっといろんな方、いろんな属性だとか年代の方に御参加いただいて、社会みんなで豊田市の高齢福祉のことについて考えられる場が共有できるといいと思いました。

(委員)

今この時代は100年時代と言われています。私どもに重要なのは健康寿命だと思います。健康寿命がうまくいくのはいろんな活動、福祉の中にあります。健康ということだけに焦点を絞ると75歳以上が今4万人台だと思いますが、あと3年で6万以上になってくる。その人たちが皆健康でいてくれないと介護保険の問題が出てくると思います。ですからいろんな活動を頑張ってやっていますので、私としては期待したいのは、豊田市は介護保険が少なくなったと言えるような活動をぜひ展開していただきたい。そのための費用は惜しみなく使っていただいて介護保険料が下がる方向に対して、目標をぜひ市の皆さんに持ってもらうというような気持ちでございます。よろしくお願いいたします。

(委員)

区長会代表ということで途中からで1年も経ってないのですが、一市民という立場で話させていただくと、市を通じて色々な文書が各自治区に来ます。その中でこれを回覧してくれという文書がたくさん来ますが、非常にわかりにくく、回覧は見てもらえないです。だからせっかくいい計画を作って、広報をしているのであれば、もう少し高齢者に見てもらえるように分かりやすく単純化した文書やイラストでPRしてもらえると、市民に事業内容が知ってもらえて、このサービスあるなら使ってみようとか、行っ

て相談してみようとかということが多々出てくるかと思います。簡単でいいので、問合せはここですというような単純な回覧文書を検討していただいてPRしていただけるとありがたいなと思います。

(委員)

私は介護保険が始まった時からこの業界に関わらせていただいて、本当に長いのですが、豊田市での関わりも長く、10年祭をして、本来であれば200ヶ所ぐらいある事業所等で大々的に20周年をするという計画があったのですがやはりこのコロナということで、これが今実現できていません。その中でも役員の方たちは結構頻りに集まって意見交換をしています。介護保険の事業所が1か所も潰れることなく人材のことを含めて、色々な事業展開をするために意見交換をする中で、1月22日に昨年はずななかった就業相談をハローワークさん、社協さん、自治体、事業所でやらせていただきました。コロナ禍なので、安全に注意をして行われたと思っています。来ていただいた方々は70人弱でしたが、思い切ってやって良かったなって思っています。また私たちは採用だけではなく人材の育成と定着も考えていかなければいけないです。ケアマネジャーの更新制度について、この研修は今まで愛知県内では名古屋市でやってきました。何日間も通うということでは仕事をしながら大変な思いをされている。今回私たちが声をあげさせていただき、近隣の市でできるようにしていただきました。人を守るためにも何か行動しなければということで、私たち事業者も動いているということも知っていただきたいというのが、私からの意見です。

(委員)

私も皆様から多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございます。今、自治体における地域包括ケアシステムをどうしていくのか、この包括支援体制をどう作っていくのかというのは重要な課題になっているかと思います。そこでやはり豊田市の場合は、庁内連携を積極的に進めておられる。これがまず一つ重要なポイントだと思っておりました。庁内連携だけでなく、行政は他機関協働ということで地域包括支援センターの委託ということもあれば、先ほど社会福祉協議会との委託受託の関係もあると思いますが、やはりこの他機関協働連携をどのように進めていくのかということが重要な点になるかと思います。専門機関だけじゃなくて今こうして参加しておられる地域の中での様々な役の方々とも連携をどう考えていくのかということも重要なポイントですので、その両方をみていただきながら、この包括支援体制を確実に進めておられるということ学ばせていただきました。

(委員)

私もこの審議会に参加させていただいて、普通では体験できないことやいろんな知識を勉強させていただくという大変良い機会になったと思っています。私ども民生委員児童委員といいますのは、一つは、見守る、相談に乗る、関係機関あるいは専門機関に繋ぐというのが大きな職務かと思えます。民生委員児童委員の信条というのがありまして、私たちは誠意を持ってあらゆる生活上の相談に応じ、自立の援助に努めるとあります。このあらゆる生活の相談に応じというのは奥が深く、どこまでやるのかは委員内でも非常に迷うところです。3年に1度一斉改選がありますので、委員の資質について、包括の人材育成の話もありましたが、新任の委員だから、あるいは20年のベテランだからと差があって良いのかという、地域社会からの要望に対して、新任だからやむを得ないということはあまり望まれないという状況であります。包括の人材育成の話と同じように、委員の資質をどのように向上させていくかということが非常に大きな課題だと思っています。またこの審議会について私どもの活動の中に委員が個々で一つ一つ課題に取り組んでいくというのは当然あるわけですが、関係機関との連携のあり方のようなものが非常に今後重要になってくるのではないかと感じています。例えば高齢福祉課の1人暮らし登録を増やそうという事業がありますが、そういうことについて、私たちが能動的に協力したり、協働したりということがどのようにできるのかとか、それから、見守る、相談に乗る、繋ぐということについて、見守るというのは具体的にどういうことになのかというようなことを深く突き詰めていくと、非常にそのケースによって、いろんな対応力が求められます。先ほど委員から民生委員の話をいただきましたが、非常に担い手が不足するというのもあり、個人的な思いですが、私に民生委員をやらせてくれと言われるような職務になっていかないと続かないだろうと思います。そんな課題を抱えながら、みなさんに御指導いただきながらやっていきたいと思っています。

(委員)

私はこの審議会に入らせていただいてから、とにかくこの審議会では、人材育成について言わせていただいています。最後までやはり人材育成です。先ほどの委員にも言わせていただきましたが、1月22日の就職相談会には66名来ていただきました。共催したハローワークの所長に100人来てほしいと言ったら、本当に働きたいという人が30人こればいいということでしたが、今回の来場者は66人で、その内の50名がハローワークに再面談や施設見学という書類を出されたということでした。やってよかったと思いました。もう一つ、かねてから言っておりました、初任者研修を今年、社協のお金を使ってやりました。20人募集して、結果的には18名が15日間を修了して

くれました。この中には、高校生の男子も1人入っております。社会福祉協議会は、地域福祉人材の育成、養成をこれからも柱に掲げ、もっと言いますと、先駆的重層型推進事業実践団体ぐらいの意気込みを持ってやっていきたいと思っております。また皆さんのお知恵をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(委員)

まずこの8期計画です。私が計画策定ときの最後の会議で計画はやっぱりワクワクする計画じゃないと盛り上がらないよねという話をしたのですが、非常にやろうという気持ちになる計画ができたなあと言うのはあのときも発言しましたが、今もそう思っています。そしてこの重点施策が3年間の計画の中で1年目でしたが、非常にいい滑り出しができていのではないかなというように感じております。なかなかこのコロナ禍でやれないかなって正直思ったところもありましたが、コロナの中でやれないではなく、いろいろ工夫したり、行政でいろいろと趣向を凝らして、変えるところは変えながら進んでいるなというそんな印象を受けています。また大変豊田市は恵まれていると思っっているのは、介護事業所間のネットワークが非常にあるのですが、サービス機関連絡協議会は200の介護事業所からできています。さらに豊田加茂医師会さんと介護保険の事業所は敷居が非常に低くコミュニケーションがとれるというのは、大変ありがたいなと思っております。お約束させていただければお忙しい中、医療職の皆さんもお時間をとっていただいて、面談していただき大変ありがたいと思っております。この関係があればリハビリ職の有効活用等もどんどん進んでいくのではないかと感じております。また医師会さんの方でいろいろ介護保険に関する懇話会等も企画していただいておりますので、私達介護保険事業所も積極的にそういうところに出ていくように発信をしていきたいと思っております。あとは包括の件について、人材育成計画を各包括支援センターで作成をしていますが、実際に作成側の立場の者からすると、他の27の包括に全部開示することがいいところですか。どこの包括がどんな計画でどんな成果を出したかというところまで見られるものですから作る方も一生懸命作ります。そしてやはり勉強になります。自法人だけの包括だけでは得られないことが、情報開示で得られること、またスタッフを様々な研修会に参加させることで、横の連携ができること、これも本当にいいことだと思っております。そして、包括の事業はやはり区長会さん、民生委員さん、そして高齢者クラブさんに、本当にご尽力いただきながら事業を進めていますので、引き続き連携のほどどうぞよろしくお願いいたします。また市の方は先ほど庁内で横串が、最近すごくできていると思っております。どの重点施策も一つの単課ではなくいくつもの課が関わってやっているし、これは非常に市の庁内ネットワークができていのだな、横の繋がりというのは財産だなと思っておりますので、介護保険事業所や行政、

福祉団体それぞれの立場があると思いますが、ぜひ横串をさしてお付き合いをしていただければと思っております。

(会長)

皆さんありがとうございました。豊田市の審議会等々に関わらせていただいて本当にありがとうございます。こういう会議をあまり堅苦しいものにならないでできるだけ皆さんが発言しやすい環境をつくるのが私の役目だとなるべく努力してきたつもりですが、限られた時間ですし中身が硬く、制度という枠組みの中でやらねばならない仕事、あるいはもうすでに決まっている枠組みというものがある中で、こうした会議をしているものですから、皆さんに御迷惑をかけた部分もあると思います。事務局の皆さんにもさんざん注文を出しまして、分かりやすくなるべく手短に、そしてみんなが議論できる時間を作るということをお願いしましたが、御容赦いただきたいと思います。豊田市には地域包括支援センターが28か所あり、これは強みでもありますが、運営する側にとってみるとものすごく大変な作業かと思えます。ただその強みを一つの看板にしながら、先ほども委員がおっしゃったように住民の方々に見える、使い勝手がいい、そして使ってみたらよかったという、そういう福祉サービスを作っていくチャンスがあるということです。地域包括の皆さんには私がずいぶんと思ひも申し上げたかと思ひますが、ようやく皆さんがいろいろな意味で仕事を楽しんでいらっしゃる様子が少し見えてきて、少し安心しました。そういう意味からすると福祉というのはやっぱり人に始まって人に終わる。人を作ってこそ福祉というものがあると私自身も心がけてきましたが、皆さんがこれから次の世代、あるいは次の次の世代を作りながら豊田市の福祉を盛り上げていただければと思ひます。どうも本当にお世話になりました。ありがとうございました。

(事務局)

活発な御意見ありがとうございました。長時間の御議論お疲れ様でした。これもちまして令和3年度すべての分科会が終了いたしました。これで一旦任期の切れる方やこの席を離れる方がいらっしゃるかと思ひますが、もし離れたとしても、それぞれの立場の中で、いろいろな御意見等を改めてお伝えいただければ、反映していける部分があるかと思ひますので、先輩方をお願いして最後にしたいと思ひます。それでは、以上をもちまして令和3年度第2回豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会を閉会します。ありがとうございました。

以上